教育文法におけるロシア語の受動態
― コーパスにおける再帰動詞の使用頻度の分析を通じて ―

Страдательный залог в учебной грамматике русского языка – Через анализ частоты употребления возвратных глаголов в корпусе –

佐山　豪太
Гота Саяма

Аннотация

Данная работа посвящена анализу частоты употребления возвратных глаголов со страдательным значением в тексте и обсуждению того, стоит ли вводить их как один из способов выражения страдательности на уроках РКИ. В русском языке существует несколько способов для выражения страдательного значения. Если говорить о глаголах НСВ, то, например, можно перечислить такие способы, как возвратные глаголы, неопределенно-личное предложение, инверсия и так далее. На данный момент возвратные глаголы представляются в учебниках в качестве одного из основных способов выражения страдательного залога. Однако нами замечено, что возвратные глаголы с данным значением встречаются редко, поскольку постфикс *-ся* может придавать производящим глаголам много значений. В случае подтверждения данной гипотезы описание объяснения страдательного залога НСВ в учебниках лучше будет пересмотреть.

За основу анализа была взята повесть А.П. Чехова «Мужики». Нами были выделены в ней все возвратные глаголы. Далее автор проанализировал контекст употребления всех возвратных глаголов в повести, определяя, какие значения они имеют. В конце было подсчитано количество возвратных глаголов со страдательным значением. Анализ показал, что они встречаются в тексте крайне редко（в нем было зафиксировано 164

возвратных глагола, среди которых страдательным значением обладали лишь восемь). Кроме того, оказалось, что возвратные глаголы с данным значением довольно часто употребляются без существительного в творительном падеже, обозначающего действующее лицо. Из данных, полученных в нашей работе, следует, что лучше пересмотреть описание страдательного залога в учебниках.

はじめに

本稿の背景

ロシア語には受動の意味を表す手段が複数存在する。一般的に、ロシア語の受動態は他動詞に後接辞 *-ся* を付加した再帰動詞と受動分詞短語尾の形式で表すとされるが、他にも、不定人称文や語順の入れ替え（客体の主題化）を用いて、つまり、能動から受動への態の変換なしに、受動に近い意味を表すことも可能である（cf. АН СССР 1980, Cubberley 2002, 匹田、瀧川 2009, Wade 2011 / 詳細は後述する）。そのため、ロシア語の態表現の特徴は、（生産的に *be*+ 動詞の過去分詞形で受動態を表すことができる）英語と比べた場合、その使用頻度の低さと表現法の多様さにあると言える（中澤 2012: 40）。

ロシア語教育において、不完了体動詞の受動表現として再帰動詞、不定人称文、語順が導入されることが多く、これら 3 つは並列的に、もしくは、再帰動詞が初めに提示される場合が多い[1]。しかし、感覚的に受動の意味の再帰動詞は使用頻度が低く感じられ、実際に、日露の文学作品を比較して、その使用頻度は低いとする先行研究（林田 1999）も存在する。これには、再帰動詞に含まれる後接辞 *-ся* の多義性が関係している。*-ся* は複数の意味を有しており（cf. Ефремова 1996: 454-455）、当接辞の付加により形成される再帰動詞は、本質的再帰、一般再帰、相互再帰、間接再帰、無対象な能動、そして受動などの意味を持ち得る（cf. Виноградов 1972, АН СССР 1980, Ефремова 1996, Wade 2011）。これらの中で受動が最も一般的な意味であるかもしれないという指摘（Cubberley 2002: 198）は

1　例えば、ロシアで出版され、広く用いられている教科書 Дорога в Россию 3-1（Антонова и др. 2013）では、不完了体動詞の受動表現として、まず再帰動詞が導入され、次に不定人称文が続く。

あるものの、*-ся* は受動を表す確実な指標とは言えないのである。

とはいえ、再帰動詞全体の使用頻度は極めて高く、その中の多くが受動の意味を有している。例えば、Ляшевская и Шаров（2009）による Russian National Corpus（以下、RNC）[2] のデータによると、高頻度 2,000 語内に 432 の動詞が含まれているが、その内の 86 が再帰動詞であった。さらに、その内の 30 の再帰動詞が受動の意味を有している [3]。*находиться* は *находить*「見つける」、*получаться* は *получать*「受け取る」に対応した、受動の意味を持つ再帰動詞として辞典内に記載されている。他にも、Sketch Engine[4] で公開されているロシア語の大規模 web コーパス ruTenTen11[5] における上位 100 個の再帰動詞は、その約半数が受動の意味を含んでいた。したがって、辞書的な項目数としては、受動の意味を有する再帰動詞は数が多いと言えよう。

ただし、一般に受動の意味の再帰動詞に出会う頻度は低く、*находиться* は「存在する」、*получаться* は「（ある結果に）なる」という他の意味で頻繁に用いられると推測される。仮に再帰動詞を受動の意味で使用する頻度が低ければ、教育文法 [6] の観点から導入時期や優先順位を再考する必要がある。参考として日本語教育文法の観点から、初級の教科書における記述の問題点を 2 つ挙げる。野田（編）（2005: 5）によると、日本語教育では日本語学の研究の成果を文法の記述に用いるという意識が強く、教育に必要のない部分まで盛り込んでいるとされる。例えば、日本語の受身表現には直接受身と間接受身の 2 項目が存在するが、田中（2005: 72-73）は、両者が大半の教科書で同じ課内に登場すると指摘している。

2　英語の British National Corpus を参考にして作られた、ロシア語版ナショナルコーパス。サンプルコーパスでありながら、その総語数を定期的に増やしており、モニターコーパスの側面も有している（2022 年 12 月現在の総語数は、約 3 億 7,400 万である）。URL は以下の通り。https://ruscorpora.ru/search-main.html

3　Web 版のУшаковの詳解辞典を分析に用いた。URL は以下の通りである。https://dic.academic.ru/contents.nsf/ushakov/

4　Sketch Engine は web 経由で使用でき、テキストのレマ化、語彙リストの作成、コンコーダンス、シソーラス検索、共起語の調査、自作コーパスのアップロードといった様々な機能を提供してくれる（詳細は Kilgarriff et al.（2014）を参照）。

5　ruTenTen11 は Web コーパスであり、約 145 億 5,400 万語から成る（2022 年 12 月現在）。

6　記述文法や規範文法とは異なり、教育文法では教える内容の視点から文法を捉えて記述していくという立場をとる（小林 2004: 6）。

（1） a.［直接受身］私は先生に叱られる。
　　 b.［間接受身］私は隣の人に騒がれた。
（田中（2005: 72-73）を著者が一部変更）

田中（2005: 72-73）は、対応する能動文（先生が私を叱る）をもつaの直接受身と、非母語話者には理解の難しい自動詞の受身であるbの間接受身を同時に導入する必要性は低いとし、後者は初級で扱わなくても良いと述べている。

イ形容詞の活用規則も同様に、通常、初級文法に含まれる。小林（2005: 32-34）は、イ形容詞の実際の発話における使用頻度を考慮すると、その否定形は初級で導入しなくても良いとしている。

表1 日常会話（22時間分）に見られたイ形容詞の活用形の使用頻度
（小林（2005: 33）を著者が一部編集）

	非過去		過去		合計
肯定	ーい（です） 例：小さい	217例 （91.9%）	ーかった（です） 例：小さかった	15例 （6.4%）	232例 （98.3%）
否定	ーくない（です） 例：小さくない	4例 （1.7%）	ーくなかった（です） 例：小さくなかった	0例 （0.0%）	4例 （1.7%）
合計	221例（93.6%）		15例（6.4%）		236例（100%）

表1からわかるように、肯定形の方が否定形よりも圧倒的に多く生起している。実際の発話ではイ形容詞は否定形ではなく、対義語で答える場合が多い。例えば、「小さくない、高くない」ではなく「大きい、安い」を用いるため、イ形容詞の否定形の使用頻度は低かったのである（cf. 小林 2005: 34）。

頻度は語彙リストの作成に際して重要な選定基準と考えられているが（e.g. Андрюшина (ред.) 2014, Webb & Nation 2017）、接頭辞や接尾辞といった形態素の単位まで議論が及ぶことは少ない。ロシア語は語形成における形態論的な比重が大きいため、効率の良い学習を考える場合、形態素毎の頻度まで考慮したほうが良いと考える（cf. 佐山 2018）。本稿で扱う

後接辞 -*ся* は、受動の意味で基本形[7]に付加される頻度が低いと考えられ、かつ、同じ -*ся* という形式に複数の意味が混在している。そのため、上記の日本語教育の事例のように、再帰動詞が受動の意味で、どの程度使用されているのかを調べる必要がある。

本稿の目的

学習上、後接辞 -*ся* の知識は極めて重要である。これは、前述の通り、再帰動詞全体の使用頻度の高さから明らかである。ただし、受動の表現手段として再帰動詞を導入する場合、教育文法の観点から、受動の意味で基本形に付加される頻度が多いのかを確認しなければならない。そこで、本稿では以下の研究目的を設定し、ロシア語教育文法における受動表現の記述に示唆をもたらすデータの獲得を目指す。

a. 実際のテキストにおいて再帰動詞が受動の意味で使用されているのかを数量的に確認する。
b. 教育文法の観点から、受動の表現手段としての再帰動詞の導入に関して検討を行う。

本稿は、1 章においてまずロシア語の受動の表現方法に関して概観する（再帰動詞、不定人称文、語順）。次の 2 章では具体的な分析手法に言及する（文学作品のテキストを用いて、そこに生起する全ての再帰動詞を抽出する）。次に、これらの再帰動詞に含まれる -*ся* がどの意味で付加されているのかを前後の文脈に基づいて判断する（詳細は 2 章を参照）。そして、3 章にて、前章で得られた結果の考察を行い、最後にまとめと今後の課題に言及する。

1. ロシア語における受動表現の概要

ここでは、英語と若干の比較をしながら、ロシア語における受動表現を概観する。なお、議論を簡略化するため、本稿で扱う受動表現は、述

7　本稿における基本形とは、派生語に対しての派生元の語を指す（亀井他（編）2001: 1067）。

部に現れるものに限定する。態（voice）は、ある行為と行為者の関係を指す文法カテゴリーであるが、一般的に、人がある行為を他の人に及ぼす時、その行為者の動作を表す動詞は能動の形をとり、これに対して、人が他の人からある行為を受け取る場合はこれを受動態と呼ぶ（亀井他（編）2001: 691）。

英語の受動態は基本的に *be*+ 過去分詞形、もしくは *get*+ 過去分詞形でその意味を表す[8]。後者は行為に対して否定的な態度を反映した受動態であるとされるが、両者の用法はかなり重複しており、両方の構造において生起できる動詞もある（Stubbs 2001: 211-212）。

（2） a. she thought she was going to be killed[9].
　　 b. it was mailed just before he got killed.　　　　（Stubbs 2001: 212）

be+ 過去分詞形を広く適用できる英語と比較した場合、ロシア語の受動態（страдательный залог）は体系立っているとは言えない。ロシア語の態のカテゴリーは、2 つの対立する文法的形態とその意味で構成され、これらは言葉において動作の主体・客体関係を実現する（Шелякин 1989: 194）[10]。一般的にロシア語の受動態は、他動詞に後接辞 *-ся* を付けた再帰動詞と受動分詞短語尾の形式で表すとされる。これら 2 つの使い分けは動詞の体（アスペクト）に大きく左右され、完了体動詞は主に[11]受動分詞短語尾の形態を用いて、不完了体動詞は再帰動詞によって受動態を表現する（АН СССР 1980: 616）。

（3） a.［完了体］　Клуб построен студентами.
　　　　　　　　クラブは学生たちによって組織された。

8　ここでは *The desk was made by his uncle.* のような中心的な受動のみを扱う。

9　例文内の下線の加工は、すべて著者によるものである（これ以降の例に関しても同様である）。

10　態の定義や研究にはдиатеза（diathesis / 出来事の参与者の意味的・統語的な構成要素の相関関係を示したもの）の理論が欠かせないが（中澤 2012, 人見 2016, 水野 2021）、本稿の議論の範囲を越えてしまうためここでは扱わない。

11　不完了体動詞であっても一部分詞短語尾形で受動態を表すものがあり、この一般化には必ずしも当てはまらない例が存在する（匹田、瀧川 2009: 177）。АН СССР（1980: 616）では以下の例が挙げられている。
Он любим друзьями. 彼は友人たちに好かれている。

b.［不完了体］ Лекция читается профессором.
講義は教授によって行われている。
（АН СССР 1980: 616）

a では完了体動詞 *построить*「組織する」が、受動分詞短語尾の形式で用いられている。一方、b の例では、不完了体 *читать*「読む」に -*ся* を付加した *читаться* が「（講義が）行われる」を表している。

だが、ロシア語には再帰動詞以外にも不完了体で受動の意味を表す手段が存在しており、その例として多くの研究が不定人称文や語順を挙げている（e.g. Borras & Christian 1971, 林田 1999, 2013, 匹田、瀧川 2009, Timberlake 2011, Wade 2011, 人見 2016）。ロシア語は態の変換なしに語順を入れ替えられるため、能動文でも受動に近しい意味を表現することが可能である。以下で、後述の分析のために再帰動詞、不定人称文、語順による受動表現を概観し、学習上の問題点について若干の言及を行う。

1.1. 再帰動詞

ロシア語には再帰動詞というカテゴリーが存在する。再帰動詞による受動表現は、いくつかの例外[12]を除けば、基本的に不完了体動詞に限定される。後接辞 -*ся* が基本形に付加されることで、本質的再帰、一般再帰、相互再帰といった様々な意味を持ち得る再帰動詞が形成されるのだが、その中の一つに、受動の意味も含まれている。歴史を遡ると、もともと後接辞 -*ся* の出自は代名詞 *себя*「自分を」の対格であったが、スラヴ語および古代ロシア語においてかつて存在した中動態のもつ機能は再帰代名詞によって引き継がれ、この再帰代名詞が次第に動詞に後置する接辞 -*ся* へと変わり、今日の再帰動詞が複数の意味を有するに至っている（林田 1999, 2013）[13]。

---

12 基本的に完了体の再帰動詞は受動の意味を表さない。ただし、*забыться*「忘れられる」, *покрыться*「覆われる」など一部の完了体再帰動詞は受動の意味を有している。

13 古い印欧語には中動態が存在し、能動態と対立していた。中動態とは、動詞の表す動作が主語に当たる語に返ってくる場合を意味し、再帰動詞はこの中動態の延長にあるもので、しばしば受動的な意味で用いられると考えられる（亀井他（編）1996: 865）。

(4)　Музей строится опытными плотниками.
　　美術館は経験豊富な大工によって建てられている。　（自作の例文[14]）

aの下線部 *строится* は、*строить*「建てる」に後接辞 *-ся* を付加して形成された動詞であり、再帰化に際して「建てる」から「建てられる」へと意味が変化している。また、動作主は造格（*плотниками* < *плотник*「大工」）で表現されている。語彙学習ストラテジー（Vocabulary Learning Strategies）の観点からすると、*строить* と *-ся* の知識を有していれば、学習者は *строиться* の意味の定着強化だけでなく、意味の予測も行えると考えられる (cf. Schmitt 1997)。再帰化に際しての意味の透明性も高い (「建てる」→「建てられる」) ため、後接辞 *-ся* の知識は、語彙力増加を目的とした教育上の価値は高いと推測される。

ただし、受動の再帰動詞の使用は制限される場合がある。まず、他動詞に *-ся* を付加することで形成される再帰動詞が必ず受動の意味を有しているわけではない、といった形態的な制限が存在する：林田（1999: 108-109）が述べているように、「特定の再帰動詞がいかなる意味内容をもつかは、再帰動詞自体の語彙的、語形成的意味、及び動詞アスペクト、動詞が用いられる文の統語的要因など、多くの要素が関係して決定される」のである。以下に、受動の意味を持たない再帰動詞の例を挙げる。

(5)　a. *В Канаде знается французский язык.
　　　カナダではフランス語が知られている。　（匹田、瀧川 2009: 181）
　　b. *Я не люблюсь школьниками.
　　　私は生徒に好かれていない。　（自作の例文）

他動詞 *знать* は「知っている」を意味するが、この動詞に *-ся* の付いた *знаться* は「知られている」という意味を表さない（ただし、*знаться* 自体は存在し、「交際する」を意味する）。同様に、他動詞 *любить*「愛する」を再帰化した *любиться* には「愛される」という意味は存在しない（ここでの *-ся* は、「相互」の意味で付加されていると考えられ、結果、「愛し合

14　自作の例文は、ネイティヴスピーカーのチェックを受けている。

う」を表す)。(5) の例が示すように、不完了体の他動詞に *-ся* を付ければ、規則的・生産的に受動の意味を持つ再帰動詞が形成されるわけではない。

では、どの程度の再帰動詞が受動の意味を有しているのであろうか。Храковский（1991: 149）によると、Ушаков のロシア語詳解辞典に記載されている 5,279 語の他動詞のうち、これに対応する受動の再帰動詞は 4,717 語であったという。この数値は全体の約 9 割にものぼる。ただし、同時にその内の 2,241 語が受動以外の意味を有する多義的な再帰動詞であった（例：*начинаться* ① 始まる ② 始められる）。これは、学習上、*-ся* を受動のマーカーとして導入するには不安定な数値である。

また、上記の形態的な制限の他に、再帰動詞の使用は統語的に制限される場合がある。再帰動詞を用いた文において主語になれるのは、基本的に 3 人称の事物名詞である。

(6) a.［能動文］ Мать одевает ребёнка.
母は子供を洗っている。
b.［受動文］ *Ребёнок <u>одевается</u> матерью.
子供は母に洗われている。 （中澤 2012: 46）

a の能動文を受動文に変換した b は、3 人称の生物名詞 *ребёнок*「子供」が主語であるため非文とされる。上記の中澤（2012）の例が示すように、ロシア語には能動態と受動態の文が対応関係にない場合が存在する。この体系性の気弱さに違和感を覚えるかもしれないが、Siewierska（2013）の統計[15]によると、世界の 373 の言語のうち、211 が受動態を持たないという。したがって、能動態と受動態の対立は普遍的なものであるとは言い切れないと考えられる（cf. 林田 1999, 人見 2016）。

さらに、再帰動詞は体的な意味に使用の傾向が現れる場合がある。ロシア語の不完了体動詞は、主として継続的・反復的な意味を表し得る。

15 参考 URL: https://wals.info/chapter/107

(7) a. [継続] София <u>читает</u> газету.
ソフィアは新聞を読んでいる。
b. [反復] Каждый день София <u>читает</u> газету.
毎日、ソフィアは新聞を読む。 (自作の例文)

したがって、再帰動詞の不完了体動詞も同様に継続的・反復的な意味を表すと考えるのが妥当であるが、林田(1999, 2013)の分析によると、受動表現における不完了体再帰動詞は反復の意味を主たる体的な意味として表現し、「眼前描写的な継続表現」を嫌うという。

(8) Почти ежевечерне на оргии приглашались жены и дочери местных аборигенов <...>
殆ど毎夜のように住民の妻や娘が夜会に招かれ、<...>
(林田 1999: 113)

上記(8)は「(繰り返し)招待されていた」という反復で解釈される。林田(1999: 113)の分析データは、受動の不完了体再帰動詞が主に(全体の 77%)反復の意味で用いられていることを数量的に示した。

1.2. 不定人称文

受動を表現する方法として、能動文で用いられる不定人称文が挙げられる(АН СССР 1980: 617)。不定人称文では主語が示されない。一般的に、これは主語が不明である、もしくは主語が重要ではない、あえて明示しないといった場合などを示す[16]。動詞の形態は、非過去(現在・未来)時制では 3 人称複数、過去時制では複数形をとる。

16 不定人称文において(主格の)主語が示されないことに関して、中澤(2012: 43)は、客体や動作そのものに焦点を当てるため、動作主を除外しているのではないかと述べている。

(9) a. ［非過去時制］ В супермаркете продают свёклу.
スーパーマーケットではビーツが売られている。
b. ［過去時制］ В супермаркете продавали свёклу.
スーパーマーケットではビーツが売られていた。
（自作の例文）

上記例文においては主語が欠如しているものの、誰が販売をしているのかは明白であり、かつ、重要な情報ではない。仮に主語を立てるとすればスーパーの従業員などが想定されるが、(9) では *в супермаркете*「スーパーマーケットでは」とあるため、主語が明示されていなくとも特定が可能である（cf. Ключкова 2004）。このように、多くの場合、不定人称文では時・場所を表す状況語が文頭にきて、潜在的な動作主の範囲を限定している（林田 2013: 82）。また、不定人称文が使われる場合、潜在的な主語は人を指す（Храковский 1991: 168-169）。

なお、多くの研究（АН СССР 1980, Ключкова 2004, Wade 2011）で言及されているが、不完了体再帰動詞の受動文は、不定人称文を伴った能動文と相関があることが多い。

(10) a. ［再帰動詞］ По радио передаются последние известия.
b. ［不定人称文］ По радио передают последние известия.
最新のニュースがラジオで放送されている。
（АН СССР 1980: 617）

a の再帰動詞 *передаются*（< *передаваться*）は、*передавать*「放送する」に *-ся* を付加して形成されたものであるが、同様の意味が b の 3 人称複数の形態（*передают*）を用いた不定人称文で表されている。

1.3. 語順

英語と比べた場合、ロシア語は語順が比較的自由である（より正確には、語順が意味を持つ言語である）。この統語的特徴が能動文に受動に近い意味を持たせる機能を果たすことがある。すなわち、通常とは異なる語順（OVS）で文を構成すること（客体のテーマ化）により、能動文が受動文

に近い意味を表す（Cubberley 2002: 197）。

(11) a. ［SVO］　Мать моет ребёнка.　　母が子供を洗う。
　　b. ［OVS］　Ребёнка моет мать.　　子供が母に洗われる。
　　c. ［b. に対応する英訳］the child is washed by his mother.
（Harrison（1967: 37）を著者が一部変更）

ロシア語の無標の語順は a のように SVO といった並びであるが、b では主語 *мать* と目的語 *Ребёнка*（< *Ребёнок*）の位置が入れ替わっている（Harrison 1967: 37）。この統語的操作によって、他動詞を用いた能動文が c の *is washed* といった受動文に近い機能を果たす（語順の自由度に制限のある英語では、*be*+ 過去分詞（*is washed*）という受動構文が用いられている）。同様の例を以下に一つ挙げる。

(12) a. ［ロシア語］　<…>　меня <u>томило</u> любопытство.
　　b. ［英語］　<…>　I have <u>been tormented</u> by curiosity.
（英露版「犬を連れた奥さん」より引用[17]）

上記の a では目的語（*меня*）が動詞の前に位置し、有標の OVS という語順をとっている。語順の入れ替えによって、能動文内で「苦しめられていた」といった受動文に近い意味を表現しており、それに対応する b の英訳では、*be*+ 過去分詞形が用いられている。

ここまで、後接辞 -*ся* を含んだ再帰動詞、不定人称文、そして語順の入れ替えを用いた受動表現について概観してきた。このように、同一の事象を表現する際にロシア語はいくつか手段が存在している。当然、これらの中から特定の手段が選ばれるには主題化や脱動作主性などの理由が考えられるが（cf. 林田 1999, 人見 2016）、その議論は本稿の領域を出てしまうためここでは扱わない（上記 3 つの手段が、自由に入れ替えられるわけではない）。

---

17 Дама с собачкой（1899 年、アントン・パーヴロヴィチ・チェーホフ（Антон Павлович Чехов）作）。ロシア語の電子テキストは Lib.Ru（URL: http://lib.ru/）から、英語版の電子テキストは Project Gutenberg（URL: https://www.gutenberg.org/）から入手し、分析に用いた。

2. 分析

ここでは、研究目的 a の確認のため、**実際のテキストにおいて再帰動詞がどの程度受動の意味で用いられているのかを調査する。**分析にはチェーホフ作の小説 Мужики「百姓たち」（1897）のテキストを用いる。RNC が提示するコーパス情報によると、本作品の総語数は 9,256 で、中編の散文小説として分類されている。当中編小説を分析に採用した理由として、① 分析対象の悉皆調査が可能である点と、② RNC に当中編小説のテキストが検索可能な状態でアップロードされている点が挙げられる（より具体的には、RNC 内でサブコーパスを作成することで、当作品に出てくる不完了体再帰動詞の全用例がコンコーダンスで表示される）。なお、当作品は 100 年以上前に書かれたものであるが、一般に 1830 年以降のアレクサンドル・セルゲーエビィチ・プーシキン（Александр Сергеевич Пушкин）の言文一致により確立されたロシア語が、広い意味での現代ロシア語とみなされており、言語の主要な特徴は現在まで変わらず保たれている（佐藤 2012: 22）。そのため、テキストはやや古いものの、再帰動詞の分析に用いても問題ないと判断した。

2.1. 分析手法

再帰動詞が受動の意味で用いられているか否かの解釈は、まず各文における統語的な環境に左右される（cf. Храковский 1991: 149）。意味の分析に際して曖昧さを完全に排除することは難しいが、可能な限り、何らかの形式的な基準により意味の分類を行う方が、より正確な結果が得られよう。例えば、動作主を伴った 3 項文であれば受動か否かの判断は難しくないが、2 項文の再帰動詞の意味分類は容易ではない。

（13）a.［3 項文］　Дом строится рабочими.
家は労働者によって建てられている。
（Караулов 1997: 134）
b.［2 項文］　Дверь открывается.
ドアが開く／開けられる。　（自作の例文）

строиться は「建てられる」や「自分に家を建てる」といった受動・非受動の意味を有している。だが、a は造格の動作主（*рабочими* < *рабочий*「労働者」）が明示されており、*строиться* は受動の再帰動詞だと解釈できる。詳解辞典において当該の再帰動詞に受動の意味が存在するという記述があり、かつ、動作主を伴った 3 項文であれば、その例を受動の再帰動詞とみなして良いであろう。一方で、b のような例の判断は一考を要する。多くの再帰動詞は受動の意味が他の意味の存在によって弱まっており、受動が顕著に現れるのは造格による動作主がある場合である（Виноградов 1972: 496-497）。しかし、再帰動詞は受動の意味で使われていても、動作主を欠いている場合が多い。このような 2 項文において再起動詞は受動・能動の両方で解釈が可能である（АН СССР 1980: 616-617）。そのため、b はドアが「開く」とも「開けられる」とも捉えられる。

そこで、本稿では以下の手順で再帰動詞が受動・非受動の意味で用いられているかを判断する。

a. 分析対象の再起動詞に受動の意味が存在するかどうかを、まず Ушаков の詳解辞典で確認する。
　→　受動の意味を有する再帰動詞のみを分析対象とする。
b. 明確な 3 項文（造格の動作主を伴う文）は、受動の再帰動詞として数える。
c. 2 項文の場合、前後の文脈と先行研究における例文に基づいて、受動と非受動の区別を行う。

まず、a の段階では当該の再帰動詞に受動に関する記述があるかどうかを確認する（例：*находиться* の項目には、*страд. к находить* という記載があり、これは *находить* に対する受動を意味する）。次に、b の段階では、再帰動詞が辞書的に受動の意味を有しており、かつ、(13) a のような、造格を伴った 3 項文で現れている場合、文脈上解釈に問題がなければ受動の意味で用いられていると判断する。c の 2 項文の場合、前後の文脈を頼りに受動・非受動の判断を行うが、林田（2013）の分析手法を参考にした。「受動用法の必要条件として主語の脱動作主性（主語以外の潜在的

動作主の存在）を挙げることができる。すなわち、主語名詞句が示す人・事物の動作・変化・状態に、主語以外のいかなる外圧も直接的には関与していない場合、それらの文は中動用法を示すものとして」（林田 2013: 80）、本稿でも扱う。

（14）В коридоре послышались шаги командора. Оказалось — не командора, а коменданта. Граждане, прошу очистить помещение, сказал он гранитным басом. Здание закрывается.
廊下にコマンドールの足音が聞こえてきた。コマンドールと思いきや、校舎管理人だった。「みなさん、お引き取りください ー彼はがんこそうなバスで言ったー 閉館です」　　　　（林田 2013: 81）

закрываться は受動と非受動の意味を語彙項目としては有している（「閉まる」、「閉められる」）。林田（2013）は文脈を考慮し、（14）の例を非受動「閉まる」で解釈した。その理由に関して、ここでは、校舎を閉めるのは話者本人であるが、あえて「閉めます」や「閉められます」ではなく、「閉まります」と言うことで、人の意思が介入できない規定事項が示されているという。本稿も同様に、前後の文脈を頼りに、潜在的に動作主が感じられるかどうかを判断基準の一つとして用いる。また、先行研究（e.g. Виноградов 1972, АН СССР 1980, Крючкова 2004）における各意味分類の例文も判断をする際に参考とする。

2.2. 分析結果

分析対象のテキストには、164 の不完了体再帰動詞が含まれていた。なお、重複を除いた、再帰動詞の語種は 101 であった。これらの再帰動詞のうち、Ушаков の詳解辞典によると、56 が受動の意味を有している。つまり、**全体の約 55% の再帰動詞が、潜在的に受動の意味で用いられ得る**。

では、実際に受動の意味でどの程度再帰動詞は使用されているのか。2.1 で言及した手順で再帰動詞を分析・分類した結果、以下の数値が得られた。

表 2 テキスト内の再帰動詞の意味の分類結果

非受動	受動		合計
156	8		164
	2 項文 – 7	3 項文 – 1	

164 の再帰動詞のうち、受動の意味で使用されていると本稿が判断した例は 8 件であった。次章にて本稿で得られた分析結果を考察する。

3. 結果の考察

前述の通り、Храковский（1991）によると、詳解辞典における大半の再帰動詞が受動の意味を有しているという。しかし、これはあくまで辞書的な観点から、多義的な再帰動詞内に、複数ある意味の一つとして受動が含まれるということであり、その使用頻度が高いかどうかまでは判別できない。そこで、実際にテキストの文脈を判断基準として意味の分類を行ったところ、**受動の意味で再帰動詞が使用されるのは稀であることが確認された（164 例中 8 例（全体の約 5%）**/ 表 2 参照)。以下で、受動の例だと判断した再帰動詞に関して言及する。

明確に受動の意味であると判断可能な（造格の動作主を伴った）3 項文は、1 例しか分析対象内に含まれておらず、かつ、その名詞句も本来的な動作の担い手とは言えないものであった。

(15) И Николай тоже смотрел, как банки, присосавшись к груди, мало-помалу наполнялись тёмною кровью　<...>
そしてニコライも、胸の吸引カップが段々と黒い血で満たされていくのを見ていた。

再帰動詞 *наполнялись*（< *наполняться*）は「満たされる」を意味し、これに続く *тёмною кровью*（< *тёмная кровь*）「黒い血」は造格の名詞句であるが、非生物の事物名詞である血が動作を担っているとは考えられない。したがって、この名詞句は本質的な動作主というよりは、文を成立させるための必要な要素として現れていると考えられる（cf. 人見 2016:

73）[18]。したがって、（15）の *наполняться* は、典型的な受動の例とは言い切れないであろう。なお、林田（1999）によると、3 項文の少なさは、不完了体再帰動詞が眼前描写を嫌い、主に反復の体的な意味で用いられることに起因している可能性がある：反復の意味で動詞が用いられる場合、動作主が造格補語として表現される確率は低い。なぜなら、再帰動詞受動構文が、主として作用 / 動作の対象たる主語の一般的な状態や属性を表すことが多い場合、動作主が不特定になるからであるという。

次に、2 項文の中で、受動の意味で用いられていると判断した再帰動詞に言及する。明確に受動の意味であると解釈できる再帰動詞の例は少なかった。例えば、Ушаков の詳解辞典によると、*называться* は「～という名だ」という非受動だけでなく、「～と呼ばれる」という受動の意味も有している。分析対象のテキストには、以下の *называться* の例が含まれていた。

（16）Говорили о битках, котлетах, разных супах, соусах, и повар, который тоже все хорошо помнил, называл кушанья, каких нет теперь; было, например, кушанье, которое приготовлялось из бычьих глаз и называлось “по утру проснувшись”.
ビトキー、カツレツ、様々なスープ、そしてソースについて話されていたが、しっかりと全部を覚えていたコックが、今はもうない料理の名前を挙げていた。例えば、牛の目で作られた料理は「朝起きてから（食べる料理）」と呼ばれていた。

（16）では過去に存在した料理についてコックが話しており、それが「朝起きてから（食べるもの）」と当時の人々に呼ばれていたと回想している。この文には造格による動作主が示されていない。だが、明示的に示されていないコックや当時の人々（潜在的な動作主）が該当の料理をそう呼んでいたと解釈でき、かつ、主語である料理が外圧を受ける対象である

18　この現象に関して、人見（2016: 72）では以下の例が挙げられている。
<...>　Было совсем темно, дворик освещался *слабым* светом из окон. <...>
外はもう真っ暗で、中庭をかすかに照らすのは、窓の明かりだけだった。
上記の文において、造格の名詞句（*слабым светом из окон*）は、本質的な動作主としてではなく、状態成立のための必要な構成物として現れていると人見は述べている。

ため（cf. 林田 2013: 80）、中動態ではなく受動態の用法であると判断した。なお、この文には再帰動詞 *приготовлялось*（< *приготовляться*）も含まれているが、同様に、文脈から判断して受動の意味「作られる」で捉えた。

次に、*лечиться* の例を挙げる。当再帰動詞には「治療を受ける」と「治療される」という非受動と受動の意味が含まれる。*лечиться* は分析対象のテキスト内で 2 例確認された。

(17) Бабка любила <u>лечиться</u> и часто ездила в больницу, где говорила, что ей не 70, а 58 лет, она полагала, что если доктор узнает её настоящие годы, то не станет её лечить и скажет, что ей впору умирать, а не <u>лечиться</u>.
おばあさんは治療されるのが好きでよく病院に通っていたのだが、そこで自分は 70 歳ではなく、58 歳と言っていた。もし医師が本当の年齢を知ったら、彼女を治療せずに、「あなたは治療されるのではなく、死にゆく定めにある」と言う、と彼女は考えていたのだ。

(17) における *Бабка*「おばあさん」は頻繁に病院へ通っており、自らの年齢を偽ることで、医師が彼女を治療するように工夫をしていた。そのため、形式として動作主こそ示されていないものの、潜在的には「医師による」治療を望んでいると判断できる。したがって、ここでの *лечиться* は「治療される」と解釈し、(17) の 2 項文の例を受動として扱った。

他に、判断に迷う 2 項文の例はいくつか存在したが [19]、いずれにしても本稿の分析からは、受動の意味で再帰動詞が使用される頻度は少ないという結果が得られた。ロシア語の受動を表す構文の多様性（再帰動詞の他に、不定人称文や語順といった手段が存在）や、再帰動詞の意味の多様性（もしくは受動の意味の弱化）によって、受動の再帰動詞は使用頻度が低いのだと推測される（cf. 中澤 2012）。歴史的に中動的な意味から受動の意味は派生したとされるが（亀井他（編）1996: 865）、本稿の分析における使用頻度の低さからすると、受動の意味は再帰動詞の中心的な

19 *наниматься*「雇われる」、*вспоминаться*「思い出される」といった例が分析対象のテキストには含まれていたが、前後の文脈から、潜在的な動作主の存在が感じられるため、受動の再帰動詞としてこれらを扱った。

位置を占めていないと考えられる。

まとめと今後の課題

まとめ：教育文法としての再帰動詞の記述の観点から

本稿は、2 点の研究目的を設定した。まず、研究目的 a に関して、**再帰動詞は受動の意味で使用される頻度が少ない**と言う結果が得られた（表 2 参照）。体系的に文法を記述する立場からすると、確かに不完了体で受動態を表現するために再帰動詞の用法に言及する必要がある。また、項目数としては受動の意味を有する再帰動詞は数多く存在しており、これは本稿の分析対象や RNC（Ляшевская и Шаров 2009）でも確認されている。ただし、前述の通り、本稿の分析により得られたデータからは、**学習者が受動の意味で再帰動詞に出会う頻度は低いと言える**。したがって、教育文法の観点からすると、出会う頻度や *-ся* という後接辞の多義性を考慮した場合、**少なくとも再帰動詞を受動構文の代表として導入する必要性は低い**と言えよう（研究目的の b）。

また、教材や授業において、受動の意味（受動に近い意味）は能動文でも表現が可能ということをより強調すべきではないだろうか。あくまで、受動の意味を表す一手段として、不定人称文、語順とともに再帰動詞を導入する方が良いと考えられる（ただし、教育的に断言するには、実証的にその効果を確認する必要がある）。

今後の課題

本稿の分析に残された課題は少なくない。① まず、分析対象のテキストの規模を大きくして追検証を実施し、同様の結果が得られるかを確認する必要がある。② 2 項文において受動・非受動の分類を行う際、造格の名詞句といった客観的な統語的指標がない場合は判断が難しかった。本稿では、2.1 で言及した手順を設けて分類を行なったものの、この基準だけでは分析者毎に異なる結果が得られると予想されるため、今後はより客観的な指標が求められる。③ さらに、本稿では受動か非受動で再帰動詞の意味を分類しているが、より詳細な分析を行い、各意味（本質的再帰、一般再帰、相互再帰など）の生起頻度を確認することで、より教

育上示唆に富むデータが得られるであろう。④ 他に、**そもそも受動を表す際、どのような場合に、再帰動詞を含めたどの手段が用いられるのか、といった問題に取り組む必要がある**。Cubberley（2002: 197-198）は、テキストの文体的な差異が影響するとはしつつも、（完了体・不完了体の違いを考慮しなければいけないが）、受動の表現方法を頻度順に受動分詞短語尾、再帰動詞、語順、不定人称文と並べているが、この記述には疑問が残る。

これらは今後の課題としたい。

参考文献

亀井孝、河野六郎、千野栄一（編）『言語学大辞典』第 6 巻、三省堂、2001 年。

小林ミナ「新しい「日本語教育文法」の構築をめざして」『日本語教育通信』第 49 号、2004 年、6 ～ 7 ページ。

―――「コミュニケーションに役立つ日本語教育文」野田尚史（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法 』くろしお出版、2005 年、23 ～ 41 ページ。

佐藤純一『ロシア語史入門』大学書林、2012 年。

佐山豪太「派生接辞を用いたロシア語の効率的な語彙学習法の検討―コーパスが提示する頻度データの言語学的な分析に基づいて―」東京外国語大学大学院総合国際学研究科提出博士論文、2018 年。

田中真理「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」野田尚史（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法 』くろしお出版、2005 年、63 ～ 82 ページ。

中澤英彦「現代ロシア語のヴォイスについて―受動表現を中心に―」『語学研究所論集』、2012 年、39 ～ 53 ページ。

野田尚史（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版、2005 年。

林田理恵「ロシア語受動構文の意味と機能」『ロシア・東欧研究 / 大阪外国語大学ヨーロッパ 1 講座編』第 3 号、1999 年、103 ～ 142 ページ。

―――「ロシア語の受け身が描く世界：再帰動詞による受動態とは」『言語文化研究』第 39 号、2013 年、75 ～ 93 ページ。

匹田剛、瀧川ニキパレツ・ガリーナ「ロシア語（受動表現）――（受動

表現データ）」『語学研究所論集』第 14 号、2009 年、176 ～ 183 ページ。
人見友章「ロシア語のヴォイス―受身表現を中心に―」言語文化研究科言語社会専攻提出博士論文、2016 年。
水野庄吾「ロシア語の受け身文について―不定人称文と受動文の機能の差を中心に―」『ロシア語研究：「木二会」年報』第 30 号、2021 年、115 ～ 130 ページ。

Borras F.M. & Christian R.F. *Russian syntax: Aspects of modern Russian syntax and vocabulary, 2nd ed.*, New York, Oxford, Oxford University Press, 1971.
Cubberley P. *Russian : a linguistic introduction*, Cambridge, Cambridge University Press, 2002.
Harisson W. *Expression of the passive voice*, *Studies in the modern Russian language*, Cambridge, The University Press, 1967.
Kilgarriff A., Baisa V., Bušta J., Jakubíček M., Kovář V., Michelfeit J., Rychlý P. & Suchomel V. “The Sketch Engine: Ten years on”, *Lexicography*, 1(1), 2014, pp. 7-36.
Schmitt N. *Vocabulary Learning Strategies; Vocabulary: Description, Acquisition and Pedagogy(edited by Schmitt D.N. & McCarthy M.)*, Cambridge, Cambridge University Press, 1997, pp. 199-227.
Siewierska A. “Passive Constructions”, *In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin(eds.) The World Atlas of Language Structures Online. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology*, URL: https://wals.info/chapter/107, 2013.
Stubbs M. *Words and phrases : corpus studies of lexical semantics*, Oxford, Blackwell Publishers, 2001.
Timberlake A. *A reference grammar of Russian(paperback ed.)*, Cambridge, Cambridge University Press, 2011.
Wade T. *A comprehensive Russian grammar, 3rd ed., revised and updated*, Oxford, Blackwell Publishers, 2011.
Webb S. & Nation I.S.P. *How vocabulary is learned,* Oxford, Oxford University Press, 2017.
АН СССР. *Русская грамматика*, *т.I*, М., Наука, 1980.

Андрюшина Н.П.(ред.) *Лексический минимум по русскому языку как иностранному. I, сертификационный уровень. Общее владение, 7-е изд*, СПб., Златоуст, 2014.

Антонова В.Е., Нахабина М.М. и Толстых А.А. *Дорога в Россию(первый уровень). В 2т. Т.1., 5-ое изд.*, СПб., Златоуст, 2013.

Виноградов В.В. *Русский язык: Грамматическое учение о слове, 2-е изд(reprinted)*, М., Высшая школа, 1972.

Ефремова Т.Ф. *Толковый словарь словообразовательных единиц русского языка*, М., Русский язык, 1996.

Караулов Ю.Н.(ред.). *Русский язык: Энциклопедия, 2-е изд. перер. и доп,* М., Большая российская энциклопедия, 1997.

Крючкова Л.С. *Русский язык как иностранный: Синтаксис простого и сложного предложения*, М., ВЛАДОС, 2004.

Ляшевская О.Н. и Шаров С.А. *Частотный словарь современного русского языка на материалах Национального корпуса русского языка*, М., Азбуковник, 2009.

Храковский В.С. *Пассивные конструкции, Теория функциональной грамматики: персональность, залоговость*, СПб., Наука, С.-Петербургское отд-ние, 1991.

Шелякин М. *Современный русский язык : теоретический курс(Иванова, В.В.(ред.))*, М., Русский язык., 1989, pp. 194-207.